

令和6年度椎葉小学校 第2回学校運営協議会(10/15)

校長挨拶・説明、授業参観、協議を行いました。
以下の授業参観の視点をお示した上で授業参観を行い、その後協議に入りました。熟議化していきました。

《授業参観の視点》
授業において、子どもたち・先生方に、「ウェルビーイング」の姿は、見られましたか？

授業参観の視点に基づき、以下の御意見をいただきました。



(学校運営協議会協議前の様子)



(教室参観の様子(6年生))



(教室参観の様子(5年生))

(授業参観のアンケート)

参観の視点として、ご覧いただいた授業において、子どもたちに「ウェルビーイング」の姿はありますか？

○か×でご記入ください。

No.	質問項目	回答欄
1	子どもたちに、学びたいという意欲が見られましたか？	
2	子どもたちは、先生の話をよく聞いていましたか。	
3	子どもたちは、友だちと協力したり意見を出しあったりして、学習に取り組んでいましたか。	
4	子どもたちは、学習する上での構えや準備が、できていましたか。	

結果

(感想やお気づきの点がありましたら、教えてください。)

(授業参観のアンケート結果)

質問No.	○	△	×
1	8	0	0
2	7	1	0
3	8	0	0
4	8	0	0

児童の笑顔からいつも元気をもらっています。

子どもが熱心に学習に取り組んでいる姿が見られた。

高学年の国語の授業等、難しい内容でした。単式・複式ともに集中して頑張っていたように思います。節度のある想像力豊かな状況だと思いました。複式学級、大変かと思いますが、頑張ってください。

机の上を整理して授業を受けている。低学年の集合学習は、他の小学校との交流で楽しそうだった。段ボールでの作業は、大人も一緒に楽しめると思いました。参観日でもできると思いました。

複式授業を初めて見て先生も児童も少し大変だろうと感じました。集合学習は、他の児童と楽しそうで良いことだなと思いました。

学習に取り組む姿は見られるが、意見を出し合うというのが“口に出して言う”という点で、積極性がほしいと感じた。

◇ 児童の様子から「ウェルビーイング」が見られるかを皮切りに、協議が始まりました。



① あなたが考える「ウェルビーイング」の姿が子どもたちに見られましたか？

高学年の教室はきれいに整理整頓されている。ぼーっとしている子がおらず、ニコニコしながら授業を受けている。低学年の集合学習の学習内容は、参観授業において親子一緒に取り組むとよいのではないかな。



子どもたちが伸び伸びして、目が輝いている印象がある。それは、幸せなことと言えるのではないかな。また、先生方も子どもと一緒に取り組んでくださっている。

集合学習は、私たちの頃もあり、中学校で初めて他の児童を知ることがなく、交流によりよい影響が見られているのではないかなと思います。タブレットを使った授業が多かったが、字を書くことも大切なのではないかな。もしかしたら、いつもと違って子どもたちは緊張していたのかもしれないね。

集合学習は、一緒にやることで友人も増えるからか、楽しそうにしていました。複式授業を初めて見たが、声が響かぬよう対策が必要なのではないかな。

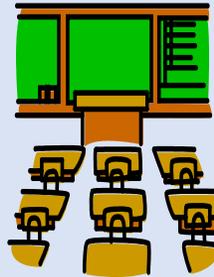
低学年の集合学習では、自由な発想で取り組んでいた。高学年は真剣に取り組んでいる姿が見られた。時代に合っている、社会に出て遅れを取らないように、自分の考えを口に出したり、意見を言い合ったりすることも必要です。

先生たちも地道に取り組んでくれて、(保護者の視点から見れば)感謝しかないのではないかな。

子どもは先生の話の聞いているが、目が納得していないような姿が見られた。また、子どもやりとりを聞いて「道具を貸して」と伝えるも貸さない児童の様子を見て、あの子の「幸せ度」はどうなのかなと考えていました。

「保護者・先生方の幸せとは何か？」について考えてみると、何をもってそう感じるのか？先生方においては、評価や達成感において幸せを感じることができないのではないかな。先生方が子どもたちに、少しずつ話をし、伝え続けることで成長する子どもを見て、毎回、教育の力のすごさを感じます。

複式学級は工夫をしてやっています。また、いろんな学校での実践や取組もあるので活用していくと良いのではないかな。



運動会を見ていて、子どもたち先生方、保護者から幸せな姿が見られたと思います。幸せにも種類やキャパがあると考えます。そんな中で、子どもたちから学校経営ビジョンの言葉(夢いっぱい・笑顔いっぱい・元気いっぱい・幸せいっぱい)を使ったり、理解していたりするの凄いなと思う。国語(高学年)は、難しい内容であったと考える。先生の板書を見て丁寧に字が書かれてあり、(子どもたちは)幸せだろうなと思います。また、授業の中で(子どもたちに)チャンスが与えられていて、先生方も子どもに「応えよう」とされていた。

小学校でオープンキャンパスのようにして、(子ども・保護者・先生・地域の方々)一緒になって、家庭教育学級のような学びができれば、インパクトがあるのでは。学校だけでなく、村教委・公民館等と一緒にできるといい。

複式学級での指導については、大分県で市町村単独で予算化し複式解消している事例を聞いた。今後、低学年が複式になれば、もっと大変だと思う。だからこそ、腹をくくっての対応がいるのではないかな。

短い授業参観の時間では評価できないし、見えてこない。保護者の意見を聞き、客観的な数字をもとにして、先生方へのフィードバック等を通して学校の力を維持してほしい。

今年度からはじまった複式学級は、本来ならば「3・4年」と「5・6年」の2学級の予定でしたが、椎葉村及び村教委が1名職員を配置(村雇用)していただいたおかげで、「3・4年」の1学級のみで今年度をスタートすることができました。

小学校の学力の土台を付けた後、中学校で落ちてしまう話を聞く。客観的な数字をもとに、「保護者が通わせたい学校」にしてほしい。

今年度新しく赴任した先生が多い中で、これまで複数回子どもに対する愛情や授業力といった教師としての資質・能力を向上させるために教職員・管理職間でフィードバックを行っている。児童に「明日学校へ行きたい」と思わせるためにも、教職員の資質向上は必須と考えています。

そのためには、先生は絶対です。水準の維持は大切です。複式の指導は、改善が必要だと思います。

「行きたくない」ということもありますよ。厳しさや義務という考えも一方で必要です。子どもの話ばかり聞いていてもダメなのではないかな。

「給食や休み時間が楽しみで学校に行きたい」という考えは、それでもよいと思いますし、それを目的に学校に行く子どもも、見守る保護者も幸せなんじゃないでしょうか。



「ウェルビーイング」について熟議化していきました

厳しさの捉え方が、変わってきている気がしている。

最後に日高校長が謝辞を述べ、会を終了した。次回、第3回は令和7年1月28日(火)です。